

## はじめに

久留米市、浮羽郡田主丸町、三井郡北野町、三潁郡城島町、三潁郡三潁町をエリアとする久留米広域地域は、真に豊かさが実感できる暮らしを実現するために、将来を展望するとき、これまでの歴史と伝統を尊重しながらも、21世紀の新たなふるさとづくりの必要性を共有し、平成15年1月10日に久留米広域合併協議会を結成して、具体的な都市づくりについて議論を進めることとしました。

20世紀の我が国は、欧米先進諸国へのキャッチアップ(1)を目標に邁進してきました。その結果、経済大国と称される経済発展を遂げることができましたが、社会経済の発展とともに、その発展を支えてきた制度や価値観との間に乖離が生じました。経済の成熟化や都市社会の定着は、これまでの右肩上がりの成長を前提とした経済中心の社会から、心豊かな暮らしに象徴される質を視点としたライフスタイル(2)へ構造転換をもたらしました。モノからココロへ、量から質へと転換が求められる中で、我が国では、制度疲労化した社会経済構造を変革し、21世紀の社会に適合した新たな制度構築に向けて、社会・経済の両面にわたって構造改革に取り組まれています。また、基本的人権の確立や男女共同参画社会の実現など、新たな世紀にふさわしい自立した社会づくりに取り組まれています。その一環として、これまでの都市づくりの基盤をなしていた中央集権と画一的な規制は、地方分権と規制緩和による多様性へと大きく舵取りが変っています。これらの変化に的確に対応し、地域の個性を活かした自立した都市づくりを、自らの知恵と実行力により自律的に行うことが求められているのです。

久留米広域合併協議会は、平成14年7月に設置された久留米広域合併任意協議会(久留米市、八女市、浮羽郡田主丸町、三井郡北野町、三潁郡城島町、同郡三潁町、八女郡上陽町、同郡広川町)において、新たな地方自治のカタチを踏まえて提唱された「新市まちづくり構想～21世紀のふるさと創り」を継承しながらも、久留米広域合併任意協議会を構成する各市町の、広域合併に対する住民意向や議会判断を踏まえて、1市4町による新たな構成自治体で広域合併に取り組むこととしました。そして、新市への取り組みの第一歩を踏み出すために、久留米広域の将来の視線上に目ざす都市を描き、その実現を図るための道すじを明らかにした建設計画を示し、新市としての一体化と均衡ある発展を久留米広域に暮らす住民に提案するものです。

私たちは、この提案が共感をもって支持され、その目ざす都市像が共有され、その実現に向かって共に活動できる日々が明日であることを確信して、新市建設計画の最初の言葉とします。

1 キャッチアップ：追いつくこと。

2 ライフスタイル：生活様式。特に、趣味・交際などを含めた、その人の個性を表わすような生き方。